

尾州 烟百五十三町八畝歩 二萬三千七百斤餘

濃州 烟百二十三町八反歩 一萬八千五百七十斤餘

江州 烟一町八反歩 二千七百斤餘

肥前基肄養父兩郡の内 烟一町四反歩 二千百斤餘

右聊の地所たりとも、午年より半減の作方なり、その後諸國新田開發し、烟草を種することおびたし、當時に至りては國々の葉筭るに違おらず、

〔雍州府志^{土六}〕多波古^略○中 多波古、山城州山科華山、攝津州服部丹波新田、河内和泉新田産爲宜、悉賣京師、

〔雅筵醉狂集^雜〕たばこを

人の來てさしの言の葉きれ口によしや芳野のたばこ一ふく

〔新編相模國風土記稿^三〕山川名所國産附

國中山海原野ニ産スル物ハ、○中 烟草^{大住郡波多野庄村々ノ産ナ、波多野烟草ト稱シテ佳品ナ}
庶子等ノ、九村ニ産スルヲモ、波多野烟草ノ佳稱ナ
貢セリ、其内松田二所ノ産ハ、松田烟草トモ云フ、

〔善光寺道名所圖會^一〕生阪菴御前生坂など、世に賞する其根元を尋るに、犀川の河上に、川並十三ヶ村といふあり、其内の上生坂村にて製するを菴の上品といふ、慶長の頃、生阪稱名寺の禪僧、西國筋修行し侍りし砌、長崎にて烟草の種を得て持歸り、我菴室の庭に植て作りしより段々廣まり、異村にても多く作り出し、諸國へ運送して産物となりし也、今も其寺中に出來たるを上品とす、御前生阪といふは、上生坂村につくるをのみいふとぞ、

〔舊錄^上〕土宜

茂質^大○曰、近時烟草之盛也、我邦每州至無處不産、但其品類有好惡耳、^中如吾奥中所出、亦極多